家　庭　科

家庭科部　　中里　真一
研究協力者　　小林　陽子　　上里　京子

１　育成を目指す資質・能力

身に付けた知識や技能を基に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力

２　育成を目指す資質・能力について

本校家庭科では，「未来を拓く子ども」の育成のために，家庭科の学習の中で育成を目指す資質・能力を「身に付けた知識や技能を基に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」とした。この資質・能力が育まれることで，子どもは，日常生活の中で自ら問題を見いだし，その解決を図る中で，自分と家族とのつながりを意識してよりよい生活の在り方を追究することができるようになる。そして，身に付けた知識や技能を，日常生活の中にある多様な状況に応じて活用して生活をよりよくしていくことができる。これは，家庭科で求められる生活の自立の基礎を培うことにつながるものである。

この資質・能力を備えるためには，子どもが生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，よりよい生活の実現に向けて問題解決を図る中で，「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱を相互に関係し合わせることが大切である。**図１**は，資質・能力の三つの柱の具体と，家庭科における「見方・考え方」である。

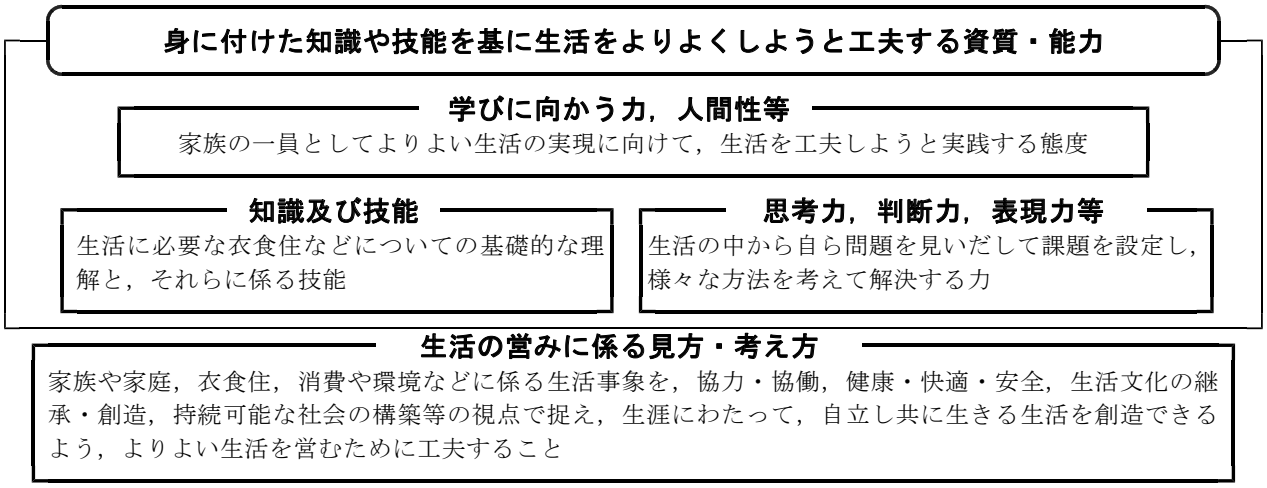


図１　本校家庭科が育成を目指す資質・能力の三つの柱と「見方・考え方」

３　研究の方向

これまでの研究において，家庭科の問題解決的な学習の中で，次のような学習指導の工夫を行った。

＜学習指導の工夫＞
○よりよい生活の実現に向けた必要感をもつことができる体験活動の設定
○現実の生活場面に近付く段階的な試しの活動の設定
○試行した方法を評価する基準の設定
○試行した方法の結果と，目標とする状態とを比較して評価する活動の設定
○試行した方法の検討シートの用意
○試行した方法の結果を判断する視点の提示
○学習計画を基にした振り返りができる学習シートの用意

その結果，試行した方法の結果に対して，根拠を明確にして改善点を他者に伝える子どもの姿が見られた。また，主体的に，日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けようとしたり，進んで家庭で実践しようとしたりする子どもの姿が見られた。このような子どもは，実践的・体験的な活動を繰り返して課題を解決していく中で，家族とのつながりを深めることを大切にして，「よりよい生活を実現するための方法」を導き出すことができていた。「よりよい生活を実現するための方法」とは，調理や製作で他者と協力しながら考えた方法を試したり，家族と自分との関わりを見つめ直したりして導かれた，環境に配慮した自分や家族が健康で快適に安全な生活を送るための方法である。そして，この「よりよい生活を実現するための方法」を導き出した子どもの姿から，資質・能力の三つの柱が相互に関係し合いながら，「身に付けた知識や技能を基に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を育成することにつながったと考えられる。

その一方で，解決に向けて繰り返し試行することに戸惑いを見せたり，試行した方法のよさを実感できず，その後の学習や生活に生かせなかったりする子どもの姿も見られた。このような子どもは，家族とのつながりを深める意識や，「よりよい生活を実現するための方法」を導き出す必要感が弱く，「よりよい生活を実現するための方法」を導き出せていなかった。その原因を次のように考える。

原因①子どもが家族とのつながりを深めることを十分意識できておらず，学習と生活との結び付きを感じていなかったため。
原因②自分が試行した方法のよさや改善点に気付いておらず，他者と協力しながら解決に向けて試行することができなかったため。

これらのことから，学習と生活との結び付きを感じることのできる「見方・考え方」を働かせられるようにし，他者との協働的な関わりの中で，よりよい生活に向けた自分が試行した方法のよさを感じられるようにする必要があると考える。

そこで，本年次は，家庭科において育む資質・能力の育成に向け，「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ学習指導の面から授業改善を行う研究を進めていくこととした。

４　研究内容

（１）家庭科を学ぶ本質的意義と「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

本校家庭科が目指す資質・能力の育成に向け，以下のように，家庭科を学ぶ本質的意義と問題解決的な学習の過程における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿を捉えた。

①　家庭科を学ぶ本質的意義

〇生活の自立の基礎を培うこと
〇家族の一員として，自分と家族とのつながりを深めること

家庭科では，自立し共に生きる生活を創造できるよう，自分の生活が家族との関わりの中で成り立っていることを理解し，家族の一員として生活をよりよくしようと工夫できるようになることが求められている。そのため，家庭科を学ぶ本質的意義を，「生活の自立の基礎を培うこと」と「家族の一員として，自分と家族とのつながりを深めること」と捉えた。

「生活の営みに係る見方・考え方」に示される「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」の４つの視点は，家庭科で扱う全ての内容に共通する視点で

あり，相互に関わり合うものである。また，これらのどの視点で生活を捉えても，生活をよりよくしようと工夫するためには，家族の一員としての働きや役割が伴う。そのため，子どもが「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせるためには，家庭科を学ぶ本質的意義である，自分と家族とのつながりを深めることを意識できるような題材の学習過程を教師が設計する必要がある。このようにして，「よりよい生活を実現するための方法」を導き出した子どもは，進んで家庭で実践する。そして，家族の一員として生活をよりよくできた達成感や感謝される喜びを実感し，自分と家族とのつながりを深めることができる。

② 「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

これまでの実践から，子どもが，「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿と協働的に学ぶ姿を，以下のように捉えた。

【「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿】 生活事象を「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」の視点で捉え，家族の一員として，自分と家族とのつながりを深めるために工夫する
【協働的に学ぶ姿】 よりよい生活を実現するための方法を導き出すために，自他の評価を基に試行を繰り返す

上記の子どもの姿を問題解決的な学習の各過程に具体化し，位置付けた（**図２**）。

過程	学習活動	「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿	協働的に学ぶ姿
見つめる つかむ	生活の中から問題を見いだし，課題をつかむ 学習計画を立てる	**生活の中から疑問点や家族とのつながりを見いだしたり，課題の解決につながる学習計画を立てたりしている。**	**見いだした問題や，解決の見通しについて自分の考えを伝えたり，他者から聞いたりしている。**
追究する	実践的・体験的な活動を繰り返して，課題を解決する 方法を試行する 試行した方法の評価・改善をする 調理や製作等の実習を行う ※実習が位置付かずに，*家庭での実践*となる題材もある	**家族の一員として，自分と家族とのつながりを深めるよりよい生活を実現するための方法を追究している。**	**試行した方法の改善点について自分の考えを伝えたり，他者から聞いたりして，試行を繰り返している。**
まとめる 広げる	課題の答えを整理し，*家庭での実践計画を立てる* *家庭で実践する* *家庭で実践した結果*や感想を話し合い，題材の振り返りをする ※*家庭での実践*が一連の学習活動として位置付かない題材もある	**家族の一員として，学んだことを基に，家族とのつながりを深める実践計画を立てている。**	**課題の答えや，家庭で実践した結果について自分の考えや感想を伝えたり，他者から聞いたりしている。**

なお，「生活の営みに係る見方・考え方」に示される「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」の４つの視点は，家庭科で扱う全ての内容に共通する視点であり，相互に関わり合うものである。そのため，学習内容や題材構成によって，重視する視点が異なる。

図２　本校家庭科の問題解決的な学習の過程における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

このような家庭科の問題解決の各過程において，子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことができるように，これまで実践してきた学習指導の工夫を継続するとともに，以下のような学習指導の工夫を行う。

（２）学習指導の工夫

自分と家族とのつながりと，「見方・考え方」が可視化された課題の設定（ア）

子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことができるように，「自分と家族とのつながり」と，「見方・考え方」が可視化された課題の設定をする。これは，課題の中に，学習内容に応じた，「自分と家族とのつながり」と，目標とする状態と関わる「見方・考え方」を言葉として加え，その視点から追究ができるようにするものである。これらの視点は，**図３**のように整理できる。

学習内容	自分と家族とのつながり	目標とする状態に関わって可視化する「見方・考え方」の例
家族・ 家庭生活	家族と協力する家庭生活の在り方	協力，分担，触れ合い，助け合い，家族の大切さ， 家族への思い　など
衣生活	家族にとって快適で役に立つ衣生活の在り方	快適さ，健康，衛生，手入れ，暖かさ，すずしさ，使いやすさ， 丈夫さ，きれいさ，日本の伝統的な衣服　など
食生活	家族の健康や好みを考えた食生活の在り方	健康，安全，衛生，栄養バランス，マナー，味，固さ，歯ごたえ， いろどり，日本の伝統的な食文化　など
住生活	家族にとって快適で安全な住生活の在り方	快適さ，安全，衛生，暖かさ，すずしさ，明るさ， 家族内や近隣の音，整理・整頓， 日本の生活文化や昔からの知恵　など
消費生活	家族の生活と結び付く消費生活の在り方	計画性，環境への影響，値段，分量，品質，リサイクル， 情報の収集・整理　など
環境	環境に配慮した家庭生活の在り方	環境への影響，省エネルギー，分別，不要品の活用， 自然を生かした生活　など

図３　課題として可視化する自分と家族とのつながりと「見方・考え方」の例

なお，これまでは，よりよい生活の実現に向けた必要感をもつことができるように，以下の①に示す体験活動によって見いだした問題から課題の設定を行っていたが，これからは，以下の②③の流れを加えて課題の設定を行う。

① 「見つめる・つかむ」過程において，学習内容によって，見本となる実物の観察，実際の試し，具体的な生活場面の想起から見いだした問題を整理する。
② 整理した問題を基に，解決の目的となる自分と家族とのつながりを明確にする。
③ 整理した問題を基に，生活の営みに係る「見方・考え方」の４つの視点から，目標とする状態にふさわしい解決の条件や方法を選択する。
④ ②③を基に，課題を設定する。

これにより，「追究する」過程において，子どもは「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて，活動ごとに課題に照らして振り返りをし，試行した方法のよさや改善する必要性に気付くことができる。そして，試行した方法の評価・改善をする中で自分の考えを伝えたり，他者の考えを基に再考し，よさの実感を強めたり，改善点を見いだしたりすることができる。

＜具体例＞　５年「Ｗａｒｍ　ａｎｄ　Ｂｒｉｇｈｔ！」

（Ｂ）衣食住の生活　（６）快適な住まい方

①　日当たりの異なる室内の温度や湿度,明るさを測定する活動から見いだした問題を整理する。
⇒子どもから出される疑問点や調べたいこと，知りたい，できるようになりたい思いを板書して整理する。

②　整理した問題を基に，解決の目的となる自分と家族とのつながりを明確にする。
⇒寒い季節を自分や家族が快適に過ごす

③　整理した問題を基に，「生活の営みに係る見方・考え方」の４つの視点から，目標とする状態にふさわしい解決の条件や方法を選択する。
⇒寒い室内を暖かくする。乾燥しないよう湿度を保つ。必要な明るさを保つ。（健康・快適・安全の視点）
⇒日光の光を利用する。暖房や照明機器を上手に使う。（持続可能な社会の構築の視点）

④　②③を基に，課題を設定する。

課題：寒い季節を自分や家族が快適に過ごせるために，**（自分と家族とのつながり）**
日光を生かしながら，暖房や照明を上手に使い，**（持続可能な社会の構築の視点）**
室内を暖かく，適度な湿度にしたり，明るくしたりする**（健康・快適・安全の視点）**
には，どのようにするとよいのだろう。

生活事象や他者と繰り返し関わる実践的・体験的な活動の設定（イ）

子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことができるように，「追究する」過程において，生活事象や他者と繰り返し関わる実践的・体験的な活動の設定をする。これは，それぞれの活動を短時間で繰り返すことができ，他者との協働的な関わりから試行した方法のよさの実感や改善点を見いだすことができるようにするものである。なお，これまでは，段階的に現実の生活場面に近付く追究ができるように，追究する要因を１つに焦点化した試しの活動の設定を行ってきたが，これからは以下に示す５点に留意し，活動の設定をしていく。

留意点	効　果
a　目標とする状態に近付くイメージをもてること b　新たに身に付ける知識や技能に着目できること c　追究する要因を焦点化できること	活動の見通しをもてる
d　短時間で簡単にできること e　他者との関わりが生まれること	複数の結果や自他の評価を基に試行した方法を改善できる
	生活事象や他者と繰り返し関わる

そのために，材料や分量をしぼる，製作物を小さくする，簡易装置を用意するなどして設定してい

くこととする。なお，複数の方法を比較する場合には，試す内容をペアやグループで分担することとする。

＜具体例＞　６年「マイみそ汁をつくろう」（Ｂ）衣食住の生活　（２）調理の基礎

課題：家族や自分の好みに合った**（自分と家族とのつながり）**
マイ**（健康・快適・安全の視点）**みそ汁を**（生活文化の継承・創造の視点）**
つくれるようになるには，
どのようなことができればよいのだろう。

a　複数あるだしとみその組合せによる味の違いが分かることで，家族や自分の好みに合ったみそ汁づくりに近付くこと。
b　だしのとり方や，みその適量や溶き方を身に付けること。
c　追究する要因をだしとみそに焦点化すること。
d　実を入れないため，食材を切る工程や煮る工程を省き，だしをとり，みそを溶くことでみそ汁を短時間で簡単につくること。
e　基本のだしを３種類と，複数のみその組合せをペアごとに変えることで，様々なみそ汁ができること。また，それらのみそ汁を全て試飲することで，味の感想を他者と伝え合えること。

【生活事象や他者と繰り返し関わる実践的・体験的な活動の設定】
実を入れずに，だしとみその組合せで自分たちの味の好みを見付けだす試しのみそ汁づくり
※ペアごとにだしとみその組合せを変えて試しの調理を行い，他のペアのみそ汁も試飲する

５　実践例　５年「手作りソーイング工房－ミシン縫い－」
（Ｂ）衣食住の生活　（５）生活を豊かにするための布を用いた製作

（１）題材の構想

本校家庭科において目指す資質・能力の育成に向け，子どもたちは，５年「手作りソーイング工房－手縫い－」で，製作に必要な用具を安全に扱い，簡単な手縫いでフェルトを用いて家族の手作りコースターを製作する学習に取り組んできた**（図４）**。このような子どもたちが，本題材において，ミシンを安全に扱い，ミシンを用いた直線縫いをして，家族と共に使うコースターや，自分の体の大きさに合ったエプロンを製作することに向けて「見方・考え方」を働かせて協働的に学び，目標となる資質・能力を育むことができるよう，**図５**のように題材構想をした。

図４　手縫いで製作したコースター

目標	製作に必要な材料や手順，ミシンの安全な使い方や直線縫いの仕方が分かり，布を用いた自分や家族の生活を豊かにする物を製作し，生活に生かそうとする。			
評価規準	(①知　・　技)製作に必要な材料や手順，上糸や下糸の準備の仕方，直線縫いの仕方が分かり，ミシンを安全に取扱い，家族と共に使うコースターや，家族の一員として役割を果たすために活用できる。自分の体に合った大きさのエプロンをミシン縫いで製作することができる。 (②思・判・表)ミシンの安全な取扱い方や，布を用いたエプロンの製作について問題を見いだし，エプロンの製作計画や，家族の一員としての役割を果たすための活用場面に合わせた使いやすいポケットの大きさや位置を考え，工夫している。 (③主体的態度)布を用いた生活を豊かにする物の製作に関心をもつとともに，製作をする楽しさを味わい，家族と共に使うコースターや，家族の一員としての役割を果たすために製作したエプロンを家庭で活用しようとしている。			
過程	時間	学習活動	「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿	協働的に学ぶ姿
見つめる つかむ	1 1	○ミシンを用いた製作の疑問点や，製作や活用によって深まる家族とのつながりを考え，課題をつかむ。 課題：「家族と共に使う物や家庭の仕事に使用できる布製品を，きれいで丈夫につくるには，どのようにするとよいのだろう」 ○学習計画を立てる。	**ミシンを用いた製作に関する疑問点や，製作や活用によって深まる家族とのつながりを見いだしたり，コースターやエプロンをきれいで丈夫に製作する実践計画を立てたりしている。**	**見本の観察から見いだした問題や，コースターやエプロンをきれいで丈夫に製作する見通しについて自分の考えを伝えたり，他者から聞いたりしている。**
追究する	1 1 1 家庭 1 3 2	○ミシンの準備の仕方を知る。 ○ミシンの直線縫いで，家族と共に使うコースターの製作をする。 ○自分の体を測って，家庭の仕事に活用できるエプロンの型紙を製作する。 ○製作に必要な布や材料を準備する。 ○型紙を用いて布にしるしを付け，裁断する。 ○周りを三つ折りにして，ミシンで縫う。 ・脇を縫う。 ・襟と裾を縫う。 ・ひも通しを縫う。 ○ポケットを縫い，ひもを通す。 ・ポケットの大きさや位置を決める。 ・ポケットを縫い，ひもを通して仕上げる。	**家族の一員として，家族と共に使うコースターや，家庭の仕事に活用できるエプロンをきれいで丈夫に製作する方法を追究している。**	**試行したミシン縫いやエプロンの製作の改善点について自分の考えを伝えたり，他者から聞いたりして，製作を繰り返している。**
まとめる 広げる	家庭 1	○製作したコースターやエプロンを家庭で活用したり，布を用いたこれら以外の物を製作したりする。 ○家庭でコースターやエプロンを活用した感想や，布を用いたこれら以外の物を製作したことについて振り返る。	**家族の一員として，きれいで丈夫に製作したコースターやエプロンの活用，他の物の製作を基に，家族とのつながりを深める実践計画を立てている。**	**課題の答えや，家庭で活用したり製作したりした結果について自分の考えや感想を伝えたり，他者から聞いたりしている。**

図５　５年「手作りソーイング工房」における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿

なお，本題材において，子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ学習指導の工夫を次のように具体化して設定した。（**ゴシックは本年次研究における学習指導の工夫**）

＜題材を通して＞
・コースターの製作でミシン縫いを試した後に，エプロンの製作をする，段階的な活動の設定
・学習計画を基にした振り返りシートの用意
＜「見つめる・つかむ」過程＞
・自分と家族とのつながりと，「見方・考え方」が可視化された課題の設定
課題：家の仕事，学校の調理で役立つエプロンや，家族と一緒に使える（自分と家族とのつながり）ものをきれいで丈夫につくる（健康・快適・安全の視点）
には，どのようにするとよいのだろう
＜「追究する」過程，「まとめる・広げる」過程＞
・生活事象や他者と繰り返し関わる実践的・体験的な活動の設定
活動：ミシンの直線縫いで，家族と共に使うコースターの製作をする活動
〇見本のコースターやエプロンを用意（目標とする状態に近付くイメージをもつ）
〇直線縫い・角の曲がり方・返し縫いの繰り返し（新たに身に付ける知識や技能）
〇「きれい」「丈夫」を追究（追究する要因を焦点化）
〇コースター製作でミシン練習（短時間で簡単）
〇ペアで１台のミシン，ペアで縫い目を確認（他者との関わり）

（２）学びの実際　※Mは抽出児，Cはその他の子ども，Tは教師，〰 は，「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿

①　「見つめる・つかむ」の過程（第１時～第２時）

第１時は，見本のエプロンを観察しながら，製作の仕方を話し合った。子どもたちは，「エプロンのように大きいものを手縫いで縫うのは大変だし，きれいに縫えないから，ミシンを使えるようになりたいな」「エプロンが作れたら，学校の調理実習や家の手伝いに使えるな」と，これまでの学習との違いに気付き，新たに身に付ける知識や技能に着目したり，これからの生活をよりよくしようとする思いをもったりした。その後，エプロンの製作の仕方に関する疑問点や調べたいことを，学級全体で話し合って問題を整理した。そして，整理した問題を基に，解決の目的となる自分と家族とのつながりや解決の条件，方法を話し合った。以下はその際の子どもたちの様子である。

Ｃ：エプロンが作れたら，家庭科やくすの木（総合）の調理実習で使えるよね。
Ｍ：そうだね。それに，家での調理や掃除の時にも使えるよね。
Ｃ：ミシンが使えたら，家族に渡すものも作りたいね。
Ｔ：では，実際に使ったり，家族に渡したりする物を作る上で，どのように作りたいですか。（学級全体に問いかける）
Ｃ：自分の物も家族に渡す物もきれいに作りたいよね。
Ｍ：長持ちするように，丈夫に作ることも必要だと思うな。

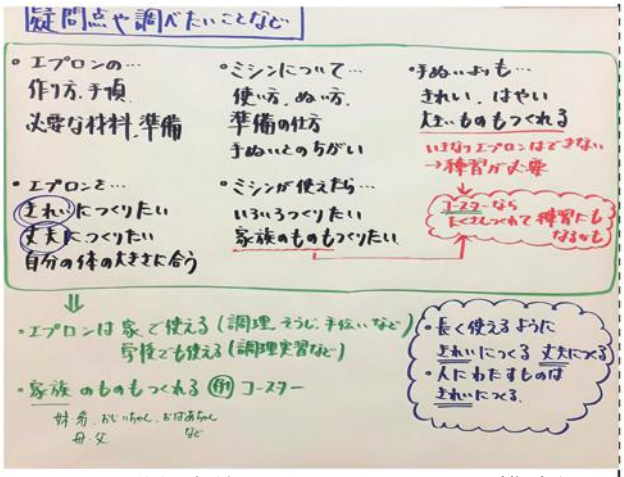


図６　学級全体の話合いをまとめた模造紙

このようにして，子どもたちは，「製作したエプロンは，家での調理や掃除などの際に使用できること」「ミシンが使えると，家族と共に使う物や家族へ贈る物が作れること」という解決の目的となる自分と家族とのつながりを明確にした。さらに，「エプロンは長く使えるように，丈夫に作ること」「人に渡す物はきれいに作ること」という目標とする状態を具体化（**図６**）し，「きれい」・「丈夫」という，健康・快適・安全の視点を学級全体で共有した。これらの流れを経て，子どもたちは次のような課題をつかんでいった。

課題：家の仕事，学校の調理で役立つエプロンや，家族と一緒に使える（**自分と家族とのつながり**）
ものをきれいで丈夫につくる（**健康・快適・安全の視点**）
には，どのようにするとよいのだろう

第２時は，きれいで丈夫なエプロンの作り方を明らかにするための学習計画を話し合った。子どもたちは，これまでの家庭科の学習経験を基に，大まかな活動の流れとして，「ミシンの使い方を知って，縫い方を練習すること」「手縫いで繰り返しコースターを製作したように，家族と共に使うコースター製作でミシンの直線縫いの練習をすること」「ミシンを使えるようにして，エプロンの製作をすること」「製作したコースターやエプロンを家庭や学校で使ってみること」「結果を話し合い，課題の答えを整理すること」を決定した。なお，ミシンを用いた製作が初めてであるため，エプロン製作の詳細な手順である「①型紙の製作」「②材料の準備」「③しるしつけ・裁断」「④縫う順番（脇→襟→裾→ひも通し部分)」「⑤ポケット付け」「⑥ひも通し」は教師が提示した。

このように，「見つめる・つかむ」過程において，Mは，自分の考えを伝えたり，他者から聞いたりする中で，「(製作したエプロンは,）家での調理や掃除の時にも使える」「長持ちするように，丈夫に作る」と発言し，自分と家族とのつながりや，目標とする状態を明確にしていた。この姿は，「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿だといえる。

②　「追究する」の過程（第３時～第１１時）

第３時は，ミシンの空縫いで姿勢や手の位置を確認した後，下糸をボビンに巻いて準備した。そして，上糸をかけて下糸を引き出し，直線縫いをした（**図７上**）。また，返し縫いレバーを使った返し縫いの仕方（**図７中央**）や，針を刺したまま縫う方向を変える縫い方（**図７下**）も試した。

図７　第３時で練習した縫い目

第４時は，ミシンの直線縫いで，家族と共に使うコースターの製作を行った。Mは，ペアと互いのミシンの操作や縫い方を見合いながら活動を進めた。以下は，互いに製作したコースターを見合いながら，縫い方について話しているペアの様子である。

M：縫い始めと縫い終わりの返し縫いを忘れずにできたけど，縫い目がしっかりと重ならないと糸が抜けてしまうかもしれないし，見た目もきれいじゃないな。
C：そうだね。返し縫いをしっかり重ねるのは難しかったね。ぼくは，角を曲がるときに，針を刺さずに回してしまったから，縫い目がずれてしまったけど，M君は，ちゃんと針を刺してから回していたから，どの角もきれいに縫えているよね。

Ｍ：ありがとう。でも，２枚重ねたフェルトが少しずれてしまったよ。見本は全くずれていないから，ずらさずに縫いたいな。次はお母さんの分をきれいに縫いたいから，布をしっかりと手で押さえて縫ってみるよ。

（Ｃが２つ目のコースター製作で縫い方を試す）

Ｃ：Ｍ君のように，角を曲がるときに針をちゃんと刺してから回したら，角がきれいに縫えたよ。

Ｍ：角の縫い目がきれいになったね。次はぼくが縫ってみるよ。

（Ｍが２つ目のコースター製作で縫い方を試す（**図８**））

Ｍ：お母さんのコースターを，布をしっかりと押さえながら縫ったら，さっきよりきれいに重なったよ。それでも，見本と比べるとほんの少しのずれが気になるな。

Ｃ：まち針を使ってみてはどうかな。

Ｍ：それいいかもね。次はそうしてみよう。

図８　縫い方を繰り返し試すＭの様子

このように，Ｍは，互いに製作したコースター（**図９**）の出来映えを，「きれい」「丈夫」の視点で確認し，縫い方のよさや改善点をペアと伝え合い，家族のためを考えて縫い方を繰り返し試していた。この姿は，「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿である。これは，ミシンの直線縫いで，家族と共に使うコースターの製作をする活動を設定し，製作物を短時間で簡単にできるコースターとしたことや，ペアに１台のミシンで互いの縫い方を見合いながら活動できるようにしたこと，見本のコースターの用意をしたことが有効に働いたためと考えられる。これにより，子どもたちは，目標とする状態と照らして振り返りをし，互いの改善点を共有しながら，家族と共に使うコースターをきれいで丈夫に製作することを追究していった。この後Ｍは，自分が納得のいく状態で家族分のコースターを完成させていた。

図９　Ｍが製作したコースター

第５時は，半分に折った不織布を自分の体にあて，ペアで協力しながらへその位置・膝下・脇の位置のしるしを付け，自分の体の大きさを合ったエプロンの型紙の製作をした。そして，その型紙を基に製作に必要な布の量や材料を明らかにした。

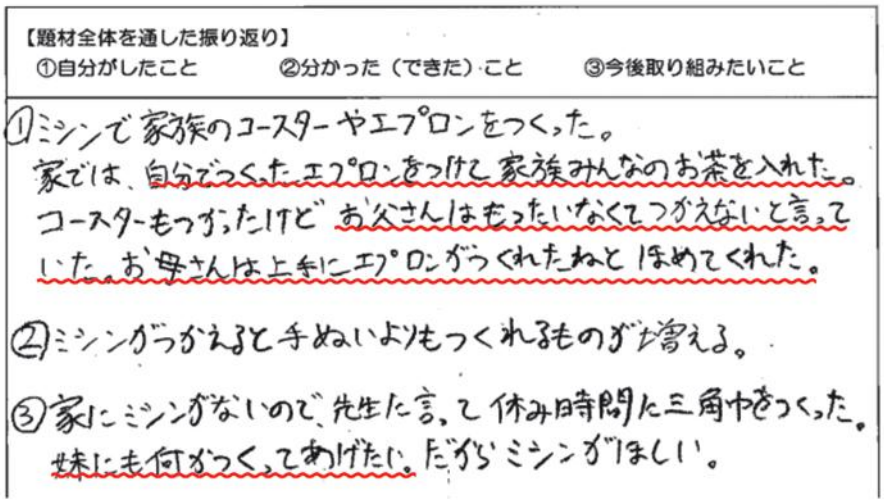
第６時は，前時に製作した型紙を用いて布にしるしを付け，布を裁った。第７時～第１１時は，ペアと共に，互いのミシンの操作や縫い方を見合ったり，製作手順を確認したりしながら，布端をアイロンで三つ折りにして，ミシンで直線縫いをし，エプロンの製作を行った。**図１０**のように，Ｍは色違いの布で３つのポケットを付けたエプロンを製作した。

図１０　Ｍが製作したエプロン

③　「まとめる・広げる」の過程（第１２時）

第１２時は，これまでの学習を基に，次のように課題の答えを整理した。

課題の答え：家の仕事，学校の調理で役立つエプロンや，家族と一緒に使えるものをきれいで丈夫につくるには，次のようにするとよい。
- 製作するものに合った材料を用意する
- 必要な布の大きさを決めるときには，できあがりの大きさにぬいしろを加える
- ミシンが使えると，手縫いに比べて等間隔の縫い目で，速く丈夫に縫える
- ミシンの直線縫いは，しっかりと手で布を押さえて，ずれないように縫う
- 角で縫い目の向きを変えるときには，針を刺した状態で布を回す
- 縫い始めと縫い終わりの返し縫いは，直線縫いと重なるように２ｃｍ程度縫う
- 布端の三つ折りは，アイロンでしっかり折り目を付ける


【題材全体を通した振り返り】
①自分がしたこと　②分かった（できた）こと　③今後取り組みたいこと

①ミシンで家族のコースターやエプロンをつくった。
家では、自分でつくったエプロンをつけて家族みんなのお茶を入れた。
コースターもつくったけど お父さんはもったいなくてつかえないと言っていた。お母さんは上手にエプロンがつくれたねと ほめてくれた。

②ミシンがつかえると手ぬいよりもつくれるものが増える。

③家にミシンがないので、先生に言って休み時間に三角巾をつくった。
妹にも何かつくってあげたい。だからミシンがほしい。

図１１　Ｍの題材全体を通した振り返り

また，製作したコースターやエプロンを活用したり，他の物を製作したりした感想を話し合った。その中で，「家族が喜んでくれた」「家族が褒めてくれた」「家族がまたつくってねと言ってくれた」など，家族とのつながりが深まったことを発言する子どもの姿が多く見られた。また，Ｍは，「できるようになったことで家族が喜んでくれるのはうれしい。また家族のために何かつくりたい」と発言していた。**図１１**は，Ｍが記述した題材全体を通した振り返りである。このように，Ｍは，「まとめる・広げる」過程において，製作したコースターやエプロンを家庭で活用したり，他の物を製作したりした感想を話し合い，題材の振り返りをする中で，学んだことを基に，妹に贈る物を製作しようとするなど，家族とのつながりをさらに深めようとしていた。この姿は，「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿だといえる。

題材を通してＭは，コースターやエプロンの製作に関する考えを友達と伝え合い，家族とのつながりを意識して，きれいで丈夫なコースターやエプロンを製作する姿が見られた。これは，自分と家族とのつながりや，目標とする状態と関わる「見方・考え方」を子どもの言葉で可視化した課題を設定したり，ミシン縫いやペアと繰り返し関わる実践的・体験的な活動を設定したりしたことにより，題材全体を通して，家族の一員として生活をよりよくしようとする意識を継続させ，生活の営みに係る「見方・考え方」を働かせながら協働的に学び，ミシンの安全な使い方や直線縫いの仕方を実感を伴って身に付けることができたからと考えられる。このことから，題材全体を通してＭは，資質・能力の三つの柱を相互に関係し合わせながら，ミシン縫いに必要な基礎的な理解と，それに係る技能を身に付け，実生活につながる主体的な態度を形成することができたと考える。

６　成果と課題

本校家庭科における問題解決的な学習の中で，「身に付けた知識や技能を基に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」の育成に向け，子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことに焦点を当てて研究を進めてきた結果，次のような成果と課題が明らかになった。

〇家族とのつながりを意識して試行を繰り返し，共通の視点で振り返りをした内容を伝え合う子どもの姿が見られた。これは，これまでの学習指導の工夫とともに，「自分と家族とのつながりと，『見方・考え方』が可視化された課題の設定」と「生活事象や他者と繰り返し関わる実践的・体験的な活動の設定」をしたことが，子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことを促すことに有効であったことを示している。このことから，資質・能力の三つの柱が相互に関係し合いながら，「身に付けた知識や技能を基に生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」の育成に向かったと考えられる。

〇家庭での継続した実践意欲を示す子どもがいる一方で，家庭での実践が題材ごとに一度きりとなってしまう子どもの姿も見られた。今後は，家族の一員として家庭での継続した実践につながる家庭科カリキュラムの在り方について検討していきたい。

【参考文献】

・文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』平成30年２月，東洋館出版社。
・長澤由喜子【編著】『早わかり＆実践　新学習指導要領解説　小学校家庭　理解への近道』平成29年10月，開隆堂。